



第40号

一発行一



一般財団法人 石川県剣道連盟

〒920-0811
金沢市小坂町西 57-3 KSハイツ205号室
TEL 076-253-0310 FAX 076-253-0341
E-mail:ishikawa-kendo@iaaitkeeper.ne.jp
URL www.ishikawa-kendo.com

三期目に向けて



会長

山下 和廣

一はじめに（基本方針）

当連盟は、先の理事会、評議員会におきまして新役員も決まり一般財団法人移行後、3期目をスタート致しました。わが国の伝統と文化に培われた剣道の普及、発展を図るとともに、心身の錬磨による人間形成とわが国社会の健全な発展に貢献することを目指します。基本方針として、剣道の理念に基づき、社会から高く評価される剣道界の発展を目指し、剣道の普及を図りま

規則の遵守、公正、協力、社会的に望ましい態度を身につけることにより正しいことを貫くことが出来る剣士を育成します。

二期目まで組織固めや活動に多くの皆さんのご理解と協力をいただき順調に推移出来たことをまずお礼を申し上げます。また、当連盟は、昭和28年設立以来、剣道（居合道、杖道）という素晴らしい日本の伝統文化の普及振興と、着実な成果を積み上げてこられた多くの諸先輩に心から感謝を申し上げますと共に培ったものを継承していかねばと思えます。また、時代を直視し当連盟がかかえる諸問題にもしっかりと取り組んでいかなければなりません。

二重点事項

平成29年度石川県剣道連盟の事業計画で、剣道の理念、剣道修練の心構え、剣道指導の心構えの三つを基本方針として、剣道を通じて人作りをして社会から高く評価される剣道界の発展を目指し剣道の普及を図ります。

重点事項として、
一 一般財団法人石川県剣道連盟の組

特集記事

- 2頁 「県立武道館長に就任して」
館長 山辺 哲夫
- 3頁 「中央講習会を受講して」
副専務理事 杉本 卓也
- 4・5頁 「剣客往来インタビュー」
かほく市 榎 敏弘氏

組織運営の充実を図る。

- 二 中学校武道必修化における剣道授業に対する支援及び授業協力者の充実を図る。
- 三 全国大会の入賞を目指し、高校、大学、一般選手各層の一層の強化・充実を図る。
- 四 ジュニア強化を通して、全国大会に通用する剣士の育成・強化を図る。
- 五 講習会等を通して審判技術の向上を図り、適正な試合運営能力を有する審判員を育成する。
- 六 剣道を正しく修練するため日本剣道形及び木刀による剣道基本稽古法の充実を図る。
- 七 広く剣道の正しい認識と普及・発展を図るため、広報活動を推進する。
- 八 女性委員会の発展を目指し、女性剣士の拡充を図る。

三重点事業

剣道人口の減少の歯止めとして会員名簿の精査と将来を見据えた青少年の育成をするため引き続きジュニア強化にも取り組み将来県剣道連盟の中心となる剣士を育成します。また、いまま

既存の組織に入れなかった剣道愛好家の活動の場として石川県実業団剣道連盟を発足し3年目を迎え今年には北陸三県の大会を開催するまでになりました。強化委員も新体制で臨みこれからの全国大会や北信越国体予選を突破し本国体での活躍を期待します。今後も全国に通用する選手強化を充実し全国大会で上位ベスト8以上の進出を目指します。

剣道の質を高めるため日本剣道形、木刀による剣道基本稽古法の普及や適正な試合運営能力を高めた審判技術の向上を図るための講習会や、若手剣道指導者育成講習会、日本剣道形、高段者稽古会を実施し、指導者としての剣道感、技量、指導経験、指導力を持った人材の育成をします。また、社会に広く剣道の良さを発信し知ってもらうための広報活動の充実で剣道の正しい認識と普及を図ります。

居合道、杖道、女性委員会も愛好者が増やし活性化し普及発展を目指します。高齢者の剣道愛好者が多くなりましてが生涯剣道で自ら高いレベルの剣道を目指しながら日本の伝統文化である剣道を伝承しながら後輩の指導も宜しく願っています。

四結びに

これらのことを役員一丸となって進みたいと考えております。皆様の一層のご理解とご支援、ご協力をお願い申し上げます。平成33年には全国高校総合体育大会剣道競技が石川県での開催予定です。上位入賞をと思っています。

特集

県立武道館長に就任して



館長

山辺 哲夫

一 県立武道館の成り立ち

県立武道館は、今から三十八年前の昭和五十三年九月三十日、県民の生涯学習の場として、武道愛好者による活用と日本古来の伝統文化としての武道振興に資するという目的で、公共交通等の利便性の極めて高い東金沢駅前で産声を上げました。

四階建て本館棟を中心に会議棟や弓道棟をバランスよく配置、一階外壁の赤戸室石張りや隣接地の境界九十メートルに及ぶ建仁寺塀等、日本的な重厚さと繊細さを合わせ持つ建築様式で、県民にとって大きな期待と誇りとなりました。

平成二十年度には屋内相撲場を建設整備、施設の充実が図られ、今日に至っております。

二 県立武道館との出会い

昭和五十四年四月、金沢市立泉中学校で講師としてスタートを切りましたが、利用者が数年後職員になろうとは想像も付きませんでした。今では大きなスポーツ施設が次々と建設される中で手狭に思えますが、当時は駐車場をはじめ、四面も試合場を有する専用施設に圧倒されたものでした。

昭和五十八年四月、野田山の麓にある金沢市立長坂台小学校が初任となりました。土曜の午後、麓に隣接している曹洞宗大乘寺にて親子座禅教室を開催、人の道について有り難い法話をいただき、剣の道と人の道について考える機会に恵まれました。

昭和六十二年四月、県立武道館へ社会体育主事として着任。武道教室指導の傍ら、県剣連の先生方とたくさんの出会いをいただき、このことが今日までの礎となりました。当時を偲びますと、週末には石川県体に向き選手・指導陣が二丸となり集結し、不夜城としての武道館で、県の威信をかけ合宿稽古に取り組まれ、絆を深めて行ったことが今も脳裏に焼き付いております。

平成二年四月（開催前年）、地

元国体局との連絡調整のため、羽咋工業高等学校へ異動。県立武道館での貴重な経験が、国体の式典運営や会場準備に着実に活きる結果となりました。

三 剣と人との出会い

平成十二年四月、国立能登青年の家（現国立能登青少年交流の家）事業課へ三年間の出向。

翌年独立行政法人化への移行に伴い、ローリスク・ハイリターンを目指し、利用稼働数の向上と数値目標への成果が問われました。そのうな中、十三ある国立青年の家で半島によるハンディを見事克服、利用稼働数伸び率第一位を達成できました。その秘策の柱にあったのは紛れもなく「剣と人との出会い」であり、今でも感謝の念で一杯です。その後、能登地区の高等学校を転任し、最後は初めての校種となりますが七尾特別支援学校でした。心の置き所は、剣を通して学んだ沢庵禅師「不動智神妙録」第六節『本心妄心』です。支援を必要とする児童生徒のために、水の如く心を動かすことの大切さを学びました。

四 館長として

前任の武道館勤務からちようど三十年、剣道が取り持つ縁で館長として着任。責任感と使命感で身を引き締まる思いです。

現在、石川県体育協会グループの指定管理のもと九年間が経過し何より「本県の武道振興の中核的拠点施設として、県民が誇れる武道施設でなければならぬ」という基本経営理念に基づき維持管理に努めています。

三十八年の月日は流れても、ライフステージに応じて誰もが安全に安心して利用できる施設であるよう、指定管理者として今ある資源を最大限有効に活用し、更なるサービスの向上へと知恵を絞り、汗を流したいと思っています。

「活人剣」を心に据え、剣を通して出会った人との縁を大切に、利用者と競技人口の拡大に少しでも役に立てるよう努める所存です。

特集

平成二十九年 度

剣道中央講習会を 受講して



副専務理事
杉本卓也

はじめに、石川県剣道連盟を代表して標記講習会受講の機会を与えて下さった山下会長始め役員の皆様に感謝申し上げます。

さて、本年度の講習会は、去る四月一日(土)、二日(日)の二日間、千葉県勝浦市内の日本武道館研修センターにおいて開講され、当県から本橋克也先生とともに受講してまいりました。

受講生は、北海道から三重県までの東日本に属する県剣道連盟、道場連盟、高体連等の代表者約七〇人(うち八段三四人)でありました。



初日の開講式で、松永政美全日本剣道連盟副会長が

「わが国の伝統と文化に培われた剣道を統一見解の下、地方に広めてほしい。」と挨拶されました。その話を聞いた瞬間、石川県の先生方に内容を正確に伝えなければならぬと大変身が引き締まるのを感じました。

一日目は、範士八段中田瑠士講師による「日本剣道形」、範士八段大嶽將文講師による「審判法」、その後「救急法」「稽古会」という日程で行われました。



剣道形の講義では、「大事なことろは、指導上の統一を図る」ことであり、指導者は日本剣道形解説書、講習会資料「日本剣道形」を熟読、精通して剣の理法に基づく剣道形を体得すること、実技は「やつて見せることができる」よう修練してほしいと話されました。実技指導では、中田講師が一本一本丁寧に解説を交えて剣道形を示範(指

導者が模範を示す)され、その後、受講生同士で交互に剣道形の修練に努めました。

審判法では、国際武道大学剣道部の学生が試合を行い、受講生が審判する方法で行われ、有効打突や反則について、審判員が宣告、旗の表示をする度、大嶽講師が全員に「今のは、一本で良いですか。」等と問い掛け、統一性を図るよう指導されていました。

二日目は、範士八段遠藤勝雄講師による「指導法」、JADA新井谷正代講師による「アンチ・ドローピング」が行われました。

指導法で遠藤講師は、「言葉だけの指導は駄目。まず示範することが大切である。」と話され、体罰や威嚇する行為等の絶無を期すよう指示もありました。実技指導では、遠藤講師が剣道具を着装して行う「木刀による剣道基本技稽古法」など様々な指導要領を示され、受講生同士でその修得に努めました。

アンチ・ドローピング講義では、薬の服用又は使用に際して、自分の立場を医師や薬剤師にしっかり伝えることが大切であると指導がありました。

二日間精一杯取り組み、何とか無事に修了証書を頂いてまいりました。



先般、四月二六日(日)石川県立武道館において、北野専務理事を始め県剣道連盟の役員出席の中、県内各地の指導者七八人の参加を得て剣道講習会が行われ、本橋先生と講師を務めさせていただきました。先の中央講習会で受講した内容を「正確にお伝えする」そのことを第一に全力で取り組みました。

講習後、受講された数人の先生から労いの言葉を掛けて頂き、肩の荷が下りる思いでありました。

終わりになりますが、私自身「やって見せることができる」よう今後も剣道に精進したいと決意を新たにしたい機会となりました。

剣客往来 インタビュー



かほく市 榎敏弘氏

一般社団法人地域スポーツシステム研究所の所長として、ご多忙の中、障害者のための専門学校を設立開校に向けて奮闘しておられる姿を新聞紙上で拝見し、いたく感激した次第です。本日は先生の仕事にかける情熱、原動力さらに剣道観、将来のビジョン等をお伺いし、剣道連盟会員の皆様に伝えたいと思います。

問.. 中学校教員として19年間勤務、その間宇ノ気中学校を全国優勝に導くなど、剣道指導者として活躍されていた中で、地域スポーツシステム研究所所長として転職されたわけですが、その間の経緯をお聞かせください。

「その人らしさが輝く21世紀」というキーワードで、人と人がつながる地域づくりに貢献したいとの思いで、2002年に地域の有志と共にNPO法人を設立し、非常勤GMとして、専従スタッフとともに運

営してきました。その中で、若いスタッフが先行きわからないちっぽけな組織で地域を大きく豊かに変えたいと、人生を賭けて必死に夜遅くまで頑張っている姿を見ながら指導支援してきましたが、私自身が公務員という安定した場所、リスクをかけず指揮を執っていることに違和感を覚えました。リーダーたるもの常に崖際に立って臨まないとも変えられないのではないかという思いがありました。

そして、「四十にして惑わず。」の40歳を前にしたときに、自分らしく自分の力が一番発揮でき生きがいをもって働ける仕事を考えた時に、「人生の敗北は挑戦すべき時に挑戦をしないことだ。」との言葉との出会いもあり、地域を創造する新しい職能である地域プロデューサーとして働く覚悟を決めました。(教育現場も人と関わる素晴らしい職業ですが、画一的な職場環境になりつつありダイナミックな魅力ある教育経営に限界を感じたことも一つのきっかけでした。)

問.. 教育界と違って、研究所(クラブ)運営にはご苦労もあったと思いますが、少しお聞かせください。教育もクラブ運営もどちらにも

苦労はあると思いますが、クラブ運営で特に苦労したのは、やはりマネジメントです。人、物、金、情報、気をすべて駆使し、成果・結果を出し変革を起こすことでした。その成果を出すために「我々の責任は何か」「我々の顧客が求めるものは何か」「我々の求める成果は何か」「我々の計画は何か」を常に自己に問いつつ事業を行っていきます。なかなか成果はできませんが:

問.. その間、中学校における指導者としての剣道の取り組みと研究所代表に就任してからの剣道への取り組み方に変化はありましたか。



当時(ここ)が強いと聞けば恥じら

いもなく電話をし、マイクロボスを運転し遠征に出かけました。義務教育の中学部活動でありながら、大阪府PL学園高校、宮崎県高千穂高校、熊本県九州学院高校、栃木県練兵館(小山第三中)、佐賀県神崎中と、本物を求めていき

ました。今振り返れば、若気の至りで、強さのみを急ぎすぎたかも知れません。今は生涯剣道を目指し、厳しさの中にもできるだけ剣道を好きに、稽古を楽しく感じるような工夫をしています。その他に、おやじたちの日曜稽古会、女性稽古会を支援しています。

問.. 研究所代表になってからも、宇ノ気中学校の指導をなされていると伺っておりますが、実際の中学校への指導はどのような状況ですか。

毎日の朝稽古(6時30分~7時25分)と土日の練習・練習試合・遠征・大会で指導しています。全国大会が近づくと夕方からも指導します。どんな練習試合、どんな大会でも必ず朝防具をつけ稽古します。周りから「いつも頑張るね。」と言われますが、私自身は朝起きて、顔を洗い歯を磨くのと同じです。努力しているつもりはありません。石川県一稽古好きだと自負しています。

問.. 研究所運営の中で障害者の専門学校の必要性を考えるようになった経緯をお聞かせください。

昨年11月に障害者向けの「ビジネススクールカラフル・金沢」を金沢駅前で開催いたしました。障害

者のスポーツ支援（トランポリン、サッカー、陸上、水泳、運動遊び等）をきっかけに、障害者の生きづらさや将来不安に対し、教師経験を活かし何か支援できないかと考え、主体的な対話による「アクティブラーニング」と「カウンセリング・コーチング」で利用者さんのコミュニケーションスキルアップと生活力改善と就労移行支援をしています。

問… 障害者向けビジネススクールの現状や課題について、お聞かせください。

ビジネススクールでは、障害があるゆえに、自己肯定感や自己効力感が低いばかりです。できるかぎり自己理解の場を設定し、自分らしさを輝かせていただくことに知恵を絞り支援しています。耳が聞こえない方は、聴力が増すのと同じように、心が病んでいる方は支援側の心の本音（潜在意識）を鋭く読み取ります。うわべの言動はまったく通用しません。毎日の支援は、剣道で学んでいる「観見の眼」で真剣に向き合っています。しかし、その時に必要なが間合いです。入りすぎても、遠すぎてもいけない、相手との程よい間合いでの対話が大切です。

問… 先生の仕事や剣道にかける情熱の源は、何ののでしょうか。

「少しでもこうなったらいいな。こうしたら楽しいし、もっと良くなるのに。」という思いを大切にしています。「昔からはこうだから。みんながこうだから。これは無理でしょ。」という固定概念や慣習や決めつけが人や社会の成長を止めていることがよくあります。私自身の発想（考え方）や行動の成長で、仕組みや環境が変えられることであれば、ただ実行・実践しているだけですが、ありたい姿を常に肚に決めて行動するようにしています。

問… 地域スポーツシステム研究所事業における、将来ビジョンについて、お聞かせください。

剣道の道場（クラブ）を創りたいと思っています。今までは、剣道の強化に力を注いできましたが、次は剣道の魅力、素晴らしさを子どもたちや、多くの人に広めたいと考えています。今までお世話になった方々と知恵とお金と力を出し合って、みんなの道場が作れたらと思っています。そこは、一人一人があるがままで居てよく、フリー・フラット・オープンな道場です。稽古後は大きな湯舟につかり疲れを癒

し、道場の真ん中に囲炉裏があって、そこにみんなが集まり酒を酌み交わしながら、仕事のこと、家族のこと、剣道のことを語る場所を創れたら思っています。

あと、現在教職員の多忙化による部活動の指導環境が大きな社会問題になっています。将来、部活動との連携を図り、専属指導者派遣等で貢献できたらと考えています。

問… 結びに、先生の目指す剣道観、あるいは方向性について、お聞かせください。

私が教師になった時に強烈にインパクトを与えてくれた方が、今でも指導者として憧れ尊敬している元高千穂高校剣道部監督の故吉本政美先生（教士八段）です。吉本先生から「二刀は万刀に化し、万刀に二刀は帰す。」という言葉を覚えていただきました。一振りは幾通りの振り方に変化し、幾通りの振りは結局一振りに帰ってくる。その人のその二振りはその人の剣道観であり、人生観である。その一振りを磨くことは人生を磨くがごときである。その二振りに思いを込め、強く、優しい、そして、美しい一振りを打ちたいと思っています。

常日頃から、生徒たちにも伝え

ている言葉があります。「剣道は、打つ前が剣道の一番重要なところであり、そして、捨てて打った後の姿を美しくあれ。その中の打突自体は単なる結果である。」と。

私自身、まだまだ、邪心と我の恥ずかしいばかりの剣道ですが、相手と深く対話した後打つても打たれてもお互いが最高に感じ合い、心から「ありがとう。」と頭を下げることができると一振りをいつか放ちたいと思っています。そんな剣道ができるよう精進していきます。

そのような剣道とほど遠い未熟な私ですが、今後とも剣道連盟の皆様、ご指導ご鞭撻いただけると幸いです。



第55回 剣道中堅剣士講習会 に参加して



宝達志水町
山本重之

一 はじめに (開講式)

今年で55回を数える伝統ある中堅剣士講習会に参加させていただきました。

講習の始めに松永政美副会長から講話をいただきましたが、その中で、

「打ってよし、打たれてよし、たかが剣道」

「剣道をやっているおめでとございます。これからも楽しんでください。」

など心を打つお言葉をいただきました。

二 基本稽古

さて、参加する前から厳しいと聞かされていた本講習会ですが、蓋を開けたらまさにその言葉通りでした。

講習会の中心をなすのは基本稽古ですが、ただ漫然と繰り返し返すのではなく、ひとつひとつの動作を確認しながら、何度も何度も繰り返し、開講式において「これは講習会ではなく、強化です」と言っておられた意味がようやく実感できました。

三 朝稽古

朝の稽古では、6時30分開始予定でしたが、講師、講習生それぞれ6時過ぎにはもう準備ができており、予定よりも20分近く早く稽古が始まるという、講師、講習生の本講習会に臨む凄まじい姿勢を感じることができました。

四 講習内容

また、当代一流の講師陣からは「地稽古」、「指導法」、「日本剣道形」、「木刀による剣道基本技稽古法」などの指導をいただきましたが、全講師の本講習に臨む姿勢は、まさに「率先」「示範」で積極的に我々の指導にあたられていました。

本講習会における講師の先生方の姿は、私の今後の剣道における、

まさに範を成すものでありました。

五 講習を終えて

県連事務局より最初にお言葉をいただいたとき、私なんかに参加して大丈夫だろうか、そんな厳しい稽古に私はついていけるだろうか、真剣に悩み、引き受けてしまったことを何度も後悔していました。

しかし、厳しくも充実した講習を終えた今振り返ってみますと、この経験は剣道のみならず、私のこれからの人生においても大変貴重なものとなりました。

全国から優秀な中堅剣士が集まる本講習会を私はこれまで別世界のことだと思っておりましたが、今回参加する機会に恵まれたことは実に幸運なことと改めて実感しています。

六 結びに

最後に、今回私を推薦していただいた石川県剣道連盟に感謝するとともに、今後微力ながら当連盟発展のため、スポーツ少年団担当理事としての私の立場から尽力していく所存であります。



剣道七段に合格して



金沢市 川坂 正登

五月に名古屋で行われた審査会で、幸運にも合格させて頂きました。これまで、ご縁があつた全ての方に感謝申し上げます。

私は十分に稽古できる環境にはなく、稽古する機会を持つのは年々難しくなっています。そのような中で心がけていたことは、笑顔で稽古すること。基本にできるだけ忠実にすること。姿勢、足さばきに集中すること。の三点です。また、受審前の稽古では特に、構えや姿勢が崩れないことを心がけました。さらに、稽古では常に何かを発見しようと考えました。結果、稽古して頂いた相手の方から様々な面で学ぶことが多かったと思っています。日々の指導させてもらっている中学生剣道部員からも多く学ばせてもらったと思っています。特に、技術的な課題を克服するための工夫は、生徒を指導する中から学んだことが多

くありました。どうしてできないのか、どうすればできるようになるのか、色々な視点から考え、自分で試して、それから生徒に指導する。そんなことの繰り返しですが私の糧となったと思います。これからも稽古して頂く相手の方から多く学ぶよう心がけていこうと思います。

剣道六段に合格して

宝達志水町 宇波 信彦

四月二十九日、京都の審査会で六段を受審し、合格させて頂きました。

一 還暦を過ぎての剣道再開

六十歳を過ぎて、これからの生き方を考えたとき、何のとりえもないことに気づきました。

そして、三十数年ぶりに羽咋郡市剣道連盟の稽古会に参加させて頂いたとき、体力と体の切れの無さに愕然としました。

「ダイエットと自己管理」を目標に、毎週羽咋武道館の稽古会とともに、母校の星稜大学で学生との稽古に参加させて頂きました。

二 目標の変更

自分なりに稽古で汗を流しダイエットに励んでいるつもりでありましたが、まったく減量にはなりません。それでも、稽古を続けることにより、体は動くようになり、先輩諸氏から「昇段審査を受ける、お前なら受かるよ」とおだてられ、その気になってしまいました。

しかし、最後に昇段審査を受けながら四十年の歳月が過ぎ、実技の感覚は無論のこと、剣道形がまったく記憶のかなたであることが分かりました。

三 審査に向けての稽古

中村、近藤先生方より剣道形の指導と地稽古での実技における「気当たりと打突の呼吸」の指導を、北川先生には「基本打ちと打ち込み稽古」の指導を受けました。

そして星稜大学剣道部の後輩たちとの稽古で、気力と体力づくり

に励みました。

四 驚きと感謝

この度、京都市立体育館での審査会に参加し、受審者の多さと、八十六歳の高齢の方が受審されていたことに驚愕しました。

稽古の再開は、当初は「健康管理と余暇の過ごし方」が目標でしたが、先輩諸氏の勧めで数十年ぶりの昇段審査を受審し、しかも、思いがけず初受審で六段に合格させて頂きました。

六段合格は、先輩諸氏と星稜大学剣道部の諸君のおかげと深く感謝申し上げます。



【全国大会等記録】(1~6月)

第26回北信越高校剣道新人大会

2月4・5日、庄川体育センター

◇男子団体

▽準々決勝

金沢桜丘 ③-① 0 屋代

羽昨工業 1-② 敦賀

星 稜 ②-① 2 新潟第一

▽準決勝

金沢桜丘 0-③ 敦賀

星 稜 0-② 新潟商

◇女子団体

▽準々決勝

金沢桜丘 1-① 新潟商

羽 昨 ②-① 敦賀

金 沢 0-③ 上田染谷丘

▽準決勝

羽 昨 2-② 上田染谷丘

第39回全国スボーツ少年団剣道交流大会

3月26・27日、名古屋市

◇小学生団体 予選リーグ敗退

◇中学生個人

▽男子 今枝怜士 予選敗退

▽女子 中本知歩 予選敗退

第65回都道府県対抗剣道優勝大会

4月29日エディオナリーナ大阪

▽二回戦

石川 2-⑤ 熊本

先四郎丸-② 岩切

次塩 野-① 穂田

五桶 田-② 村富

中鶴 城-① 芹川

三篠 井-① 西村

副齊 藤-① 中嶋

大山 田-① 古館

平成29年度県高校総体剣道競技

6月1~3日、羽昨体育館

◇男子団体

▽決勝

羽昨工業 ○代表戦 星稜

◇女子団体

▽決勝

羽昨 ③-① 金沢桜丘

◇男子個人

▽決勝

盛本(羽工)ド-① 四郎丸(桜丘)

◇女子個人

▽決勝

徳山(桜丘)①-① 横山(羽昨)

第55回北信越高校剣道大会

6月16・18日、福井県立武道館

◇男子団体

▽準々決勝

星 稜 ①-① 0 長野日大

▽準決勝

星 稜 0-② 新潟商

(3位)

◇女子団体

▽準々決勝

金 沢 ③-① 1 上田染谷丘

羽 昨 1-② 新潟中央

▽準決勝

金 沢 1-② 敦賀

(3位)

◇男子個人

▽準決勝

四郎丸(桜丘)-① 須田(新潟明訓)

(3位)

中央審査会合格者

◇剣道

▽七段 川坂 正登

▽六段 森 尊史 宇波 信彦

▽教士 富田 東 三嶋 勇一

▽錬士 辰巳 明伸

▽錬士 木原 伊織

林藤武道具店

〒920-0803 石川県金沢市神宮寺町1番地83
Tel.076-252-2220 Fax.076-252-2240
HP <http://www.rindoubudougu.jp/>
E-mail:budou@chive.ocn.ne.jp

●定休日/月曜日

【営業品目】
剣道・柔道・空手・なぎなた・武道具全般
(剣籠・ゼッケン・ネームプリントも承ります)



武道具の
ハシモト

金沢市上荒屋7丁目67 TEL 249-8233
〒921-8065 FAX 249-9139